

英会話学校を確実にものにする！

～あなたの英語を本当に「役に立つ」英語に変える第一歩～

制作・著作：潮田耕一

URL: <http://www.ushioda-koichi.co.uk/>

Email: itotallyadoreyou@gmail.com

* 著作権は潮田耕一にあります。無断での転載等の、著作権を侵害する行為はどうぞ遠慮くださいませ。

あなたの「目的」は何ですか？

何をもって、「英会話学校をものにできた！」と言うかどうかは、あなたの英会話に求める目的・レベルによってかわってきます。

ひんぱんに外国のクライアントとの接触があり、英語でもってビジネスレベルで支障のない、失礼のない英語をしゃべる必要があるのか、それとも、たどたどしくてもよいから、たまに起こる海外ゲストとの接触、電話での会話などがこなせればよいのか、または、今学生だけれども、将来国際社会で働けるようになりたいから、できる限り高いレベルを目指して励んでいるのか、それとも海外旅行とかで困らない程度のレベルを目指しているのか、または、外国のペンフレンドなどのお友達が日本に来たときに、日本のことをそこそこうまく説明してまわりたいのか、それとも、英語はそこそこでいいから、白人のかっこいい彼氏を作りたいから通うのか(笑)、もう人それぞれさまざまな目的があるはずです。

ひょっとしたら、特に目的というほどの目的はないけれども、なんとなく時間もお金もあるし、英語にはもともと興味があったから通ってみたい、というのでもぜんぜんいいことだと思いますし、親に行けと言われたからとりあえず行っている、という学生もいることでしょう。

目的がある人にとっては、その目的を無事達成できれば、英会話学校をものにできた！とすることができます。特に明確な目的がない人にとっては、英語の実力が、自分で満足できる程度にのびて、かつ楽しい、面白い経験がいろいろとできたなら、英会話学校をものにした、と言っていいのではないのでしょうか。

私自身は、テストの点数だけはやけに良い(英会話学校に入った時点で TOEIC スコアは 950、それに東大生である、というブランドを背負っていました)くせに、英語をまったくしゃべったことがない、という情けない状態を変えたい、変えて、テストの点数にふさわしいくらいに、外国人さんとふつうにいろいろな話題についてスムーズに話せるくらいまで英会話力を高めたい、ということと、外国人がよくわからないし、外見的に

も怖いし近寄りがたい、という、偏見に近い恐怖心を克服したい、という目的がありました。

目的によって、先生からどういう指導を受けるべきなのかは変わってくる

私の場合には、自分の TOEIC スコアに見合うくらいに英会話力を高めたい、という気持ちがありましたので、求める英会話力はいくらでも高いに越したことはない、という状態でした。ですので、ひたすら、できる限り完璧な状態にする、ということに取り組んでいました。

ですので、私が英会話学校に通っていたときには、小さな文法ミスをしてしまったときや、語法上、意味はわかるけれどもベストではない言い方をしてしまったときであっても、ちゃんと指摘して直してもらうことを望んでいました。(それでもなかなか、すべてのミスをちゃんと指摘してもらおうということはできませんでした。そのへんについてはまた後で触れます)

しかし、そこまで英語力を高める必要はなくて、旅行とかをそつなくこなせる程度でよいと考えている人や、かんたんなことを英語で表現できたらそれでいいと考えている人も当然多いわけです。

その場合には、たとえば3人称単数の s を付け忘れとか、たまに過去の話なのに過去形を使い忘れて現在形でしゃべってしまうとか、そんなことを気にする必要性はあまりないわけです。むしろ、そのような、相手に自分の考えを伝えるうえで混乱を生まないような小さなミスを気にすることなく、そこそこリズム良く、テンポ良く、相手が理解できる程度に正しい英語でもって、話を展開し受け答えできる能力をきたえる、ということが、メインの目標になります。

そして、あなた自身が、どのような英語力を目指すのかを意識するのはもちろんのこと、あなたに英語を教える人、つまりは英会話学校の先生も、あなたがどの程度の英会話力を身に付けたいと思って通っているのか、明確にわかっている必要があります。

そうでないと、あなたの希望と、教えてもらえることとの間にずれが生じて、英会話学

校の授業があまり魅力的ではないものに思えてくる一因になりかねません。

なので、授業で会った先生には、自分がどの程度の目的でもって英会話学校に通っているのかを分かっておいてもらったほうが、より適切な指導・アドバイスをもらえやすくなります。

もちろん英会話学校のほうもプロとして商売をしているので、あなたの目的に応じた授業プランニングをするわけですが、あくまでそれは「建前」で終わってしまって、実際は「たくさん生徒を入れてお金をもうけることしか考えていない！」という生徒たちによる酷評を幾度か耳にしたことがあります。

考えてみれば、私が通っていた英会話学校の校舎も、べつにほんとうに面倒見がよかったわけではなくて、私のことを気にするのは、私により長く・多くの授業をとってもらい、継続的にお金を落としていってもらいたいから、というような、お金儲けの雰囲気を感じました。

私自身は、自分で勝手に英語の学習計画などは立てるタイプなので、英会話学校側に余計な口を出してもらわなくてかえってよかったくらいではありました。

英語を教えることを自分の「本職」としているようなネイティブの先生はほんのわずかしきありませんでしたし(日本で1年くらい楽しく過ごす間の生活費を稼ぐ意味で、片手間として働いている人ばかりでした)、日本人スタッフも英語学習の専門家などでは決してなくて、ただ人当たりをよくし、授業をより多く契約してもらおうべく売り込もうとする営業もかねた、ただの素人の人たちでした。

しかし私の目的からすれば、特にそれで問題ありませんでした。特に何かシステムティックに方法論にのっかって教えてもらうとかそういうことは別にいいので、ただふつうのネイティブの人と英語を話し、慣れるという練習ができればよかったです。

もちろん、各英会話学校によって、事情はちがってきます。英語教授法についてちゃ

んと大学で専攻し、英語をネイティブではない人に教えることを「本職」としているネイティブの先生がいる学校も当然あります。そういう学校のほうが値段は高めにはなってくると思いますけれども。

一応当マニュアルでは、多くの人に共通するようなアドバイスを取り上げていて、かつ、レベルは英会話初級者に合わせていますが、「これは私の目的のレベルだったらいないだろう」と思われるものがあるかと思います。その際にはご容赦ください。

英会話、とおおざっぱに言っても、いろいろなジャンルがある

英会話と一口にまとめて言うのは簡単ですが、それを細かく分類するならば、場面・状況別にいろいろと分けることができます。

たとえば、ビジネス英会話とか日常英会話、旅行英会話などと大雑把なくくりをすることもできますが、そのくくりの下にも、さまざまな英会話の場面・状況が考えられます。

ビジネス英会話であれば、電話の対応の英会話のことなのか、来客が来たときにその客に上手に対応するための英会話なのか、それとも得意先を開拓し、交渉を進め、契約を結ぶための英会話なのか・・・というように、まだ枝分かれしていきます。

そのように、英会話にもいろいろな場面・状況があります。そのうち、どの場面・状況において上達することが、いちばん自分にとって満足感を引き出すものになるのか、事前に考えておきましょう。

そうでないと、会社では何よりもまず外国の支社からの電話対応がうまくないとやっていけないにも関わらず、なんとなく英会話学校に通っていたら、なぜか海外で買い物をするときの値段交渉の英会話を学んでいる自分にふと気づいた、というような、おかしい結果になりかねません。

自分がいちばん上げていきたい、得意になりたいと思う場面・状況の英会話は、他の場面・状況に比べて、きっと多くのエネルギーを進んで費やし、やる気ができる分野なのだと思います。まずはそういう分野に力を注ぐ、という考え方は、よい作戦だと思います。

私の場合には、英会話学校に入った当初は大学生でしたし、あまり企業に就職するということにも興味を持っていませんでしたから、仕事関係の英会話には興味がありませんでした。

というよりはむしろ、ふつうに英語のネイティブの人と友達づきあいをしたときに、いいテンポでスムーズに会話をして、楽しみたい、という気持ちが強くありました。ですので、いわゆる会話的でくださった表現に興味がありました。

会話的でくださった表現、とittedだけではかなり幅が広いことになります。ですので、英会話学校の外でも積極的に、たとえばNHKの英会話テキストなどを利用しました。

人間だれでも、やってることはできるが、やってないことはできない

私自身、高校 3 年生の受験生時代は、東大に受かることだけが目的で生きていたので(すごく荒涼とした生活でした)、東大の対策しかしませんでした。高校2年生の終わりくらいから、東大で出る試験の形式で普段から練習していくように、塾でもプログラムを組まれましたし、自分で学習する際にもそうしていました。

東大の対策しかなければ、そうではない受験生に比べれば、東大の試験に関しては有利になっていける可能性が高まります。安全を考えて、東大が第一志望だけれども、慶応も早稲田もおさえたい、と思って、慶応・早稲田の対策もしていくのであれば、悪く言えば、どの大学の対策においても、1つの大学だけにしぼって対策をしている受験生に比べれば、劣ってしまうという危険性があります。

私の場合、慶応対策の模試も受けたことが1度ありました。無料でいいので受けなにか、という誘いが大手予備校から来たので、無料ならいいか、と思って受けただけのことだったのですけれども(笑)。それでももちろん、試験においては真剣に問題を解きました。高3の 12 月という、実力がのってきている時期のことです。それまで東大模試でもA判定(いちばんよい判定です)しか出さず、年に2回ある東大模試の2回目のほうでは、自分の希望していた科類を志望する 1000 人を超える他の受験生たちの中で、全国9位にすら入っていました。

それだけの実力があいながら、それまでまったく対策もしておらず、見向きもしていなかった慶応大学の対策模試を受けた結果は、C判定でした。判定はA~Eまでありますので、ちょうど真ん中くらい、つまり合格できる可能性は半分程度、という判定でした。

そういうことなのです。やっていることは、できます。やりまくれば、できまくりです。しかし、やっていないことは、あまりできないか、まったくできないか、という結果になってしまいます。

英会話もそれと同じなんです。英会話学校に通っているのが長い人は、たいてい自己紹介はすごくうまくつたりします。すごく流暢に、かつ、「公務員」とか、「~エンジニア」とか、自分の仕事について、難しい言葉を使ってちゃんと説明できたりします。「あ、この人はなかなかレベルが高いなっ!」と思わせるものがあります。しかし、実際にレッスンの中でいろいろな話題について話すこととなると、「あれ、この人意外にあまり

できない!？」と驚いてしまうことがあります。

これはどうして起こるかといえば、英会話学校に長くいるだけあって、自己紹介はもう何回も何回も何回もやっているからなんです(笑)。何回も言って、慣れきっているから、難しい単語も使って、かつスムーズに、しゃべることができるわけです。

しかし、他のこととなると、もう話題なんてものは本当にたくさんあるわけで、なかなか「慣れる」ということは難しいですね。そうすると、その人のレベル相応な程度にしゃべるのが精一杯、となってしまうわけです。

このことからわかるのは、あなたの目的が、「ある特定の場面」において英会話力を発揮することなのであれば、その特定の場面で登場しそうな話題・表現ばかりを学ぶべきです。そうすることで、あなたの、いわば「本当の」英語力からすれば考えられないような流暢さでもって、その「特定のジャンル」の英語だけはこなせるようになります。それも、比較的短期間の間に、です。

ただ、かなり広い範囲の話題について話さなくてはならないような場合には、それらに広く対応できるようにがんばる必要があります。時間がかかります。特にこのジャンルについては早くできるようになりたい、と思う分野があるのであれば、その分野を優先したいものです。

英会話学校によって変わってきますが、あなたが特に重点的に練習したい分野について、英会話学校側にきちんと事前に伝えてあれば、それに答えるように授業プログラムを調整してくれるはずですよ。とりわけ、マンツーマンの授業を提供している英会話学校であれば、そのような個人の特殊事情に合わせた授業計画は簡単に行えることです。逆に、生徒数人を相手にする集団授業となると、個人の特殊事情は合わせづらい、ということになります。

どれくらいの頻度で英会話をするのがよいのか？

あなたの目的がどのようなものであっても、頻度は多いにこしたことはありません。できることなら、入ってから1ヶ月くらい毎日のように通いつめることで、一気に英会話というものを身近にできる可能性が高いです。とりわけ、すでに高校レベルの基礎的な英文法は理解している、という場合には特にこれは有効です。

まだ基礎的な英文法の知識にも不安な点が多い、という方の場合には、通いつつも、家に帰ったら読みやすい本でもって、日本語で文法事項について知識を固めるという作業をしないと、実力の向上のスピードは遅くなります。

「長い時間はかけたくない、最小の労力で劇的な効果を生みたい」とそう思うのは誰でも一緒です。

でも考えてみてください。野球がうまくなりたいと強く思う人が、素振りをしない日が一日でもあるでしょうか？

テストの点数がいいくせに、「おれは(私は)ぜんぜん勉強してないよ」とか言っている学校時代の旧友が、本当にまったく勉強していなかったためしがあるでしょうか？

英語のネイティブスピーカーが、たとえば18歳でまともな英語をしゃべれるようになると仮定するのであれば、初めて言葉を発した幼少のころから以降、1日でも英語をしゃべらなかった日があったでしょうか？1日でも英語を聞かなかった日があったでしょうか？

「一週間に1度か2度、1回1時間程度の英会話学校の授業を受けただけで、英語力は伸びるのか？」

厳密に言えば、答えは「Yes」です。伸びることは伸びます。しかし、その伸び方は、多くの人々が英会話学校に通うことで伸びると期待している伸び率に比べて、乏しいものだと思います。